

倉敷医療生協

被爆80年 平和企画

第1部 記念講演

ジャーナリスト

小山美砂

さん

koyama misa



# なぜ私が「黒い雨」取材に取り組むのか

第2部 どうしたら核兵器をなくせるか  
トークセッション

2025年 5月17日(土)

午後1時30分～4時

くらしき  
健康福祉プラザホール  
どなたでも参加できます

小山美砂 プロフィール

●1994年生まれ。2017年に毎日新聞へ入社後、希望した広島支局に配属。被爆者や原発関連訴訟広島への原爆投下後に降った「黒い雨」を浴びた被害者への取材に取り組む。

●2022年7月、「黒い雨被爆者」が切り捨てられてきた戦後を記録した初のノンフィクション『「黒い雨」訴訟』（集英社新書）を刊行。同書にて「日本ジャーナリスト会議」が優れたジャーナリズム活動・作品を懸賞する第66回JCJ賞を受賞した。

●毎日新聞大阪社会部を経て2023年からフリー。広島を拠点に核被害の取材を続けている。

主催 倉敷医療生活協同組合 社保平和委員会 086-448-3369 (健康事業部)

倉敷医療生協 被爆80年平和企画 (記念講演 小山美砂) 参加申込書

| 氏名 | 住所 | 電話番号 |
|----|----|------|
|    |    |      |



FAX送信先 086-436-6536

# 「黒い雨」とは

黒い雨（くろいあめ）とは、原子爆弾投下後に降る、原子爆弾炸裂時に巻き上げられた泥やほこり、すすや放射性物質などを含んだ重油のような粘り気のある大粒の雨で、放射性降下物（フォールアウト）の一種である。原子爆弾が投下された広島市で、黒い雨の記録が残っている。

広島市では、主に北西部を中心に大雨となって激しく降り注いだ。この黒い雨は強い放射能を持つため、この雨に直接打たれた者は、二次的な被曝が原因で、髪の毛の脱毛や、歯ぐきからの大量の出血、血便、急性白血病による大量の吐血などの急性放射線障害が起こった。大火傷・大怪我をおった被爆者達はこの雨が有害なもの知らず、喉の渇きから口にするものも多かったという。

原爆被災後、他の地域から救護・救援に駆けつけた者も含め、今まで何の異常もなく元気であったにもかかわらず、突然死亡する者が多かった。水は汚染され、川の魚はことごとく死んで浮き上がり、この地域の井戸水を飲用した者の中では、下痢をすることが非常に多かったという。

長崎でも、黒い雨の降雨記録が残っている。黒い雨は爆風や熱線の被害を受けなかった地域にも降り注ぎ、広範囲に深刻な放射能汚染をもたらした。

（ウィキペディアから引用）

## 小山美砂さんの著書 『「黒い雨」訴訟』

なぜ、黒い雨被爆者は戦後75年余りもの間、置き去りにされてきたのか。そこには、被ばくの影響を訴える声を「切り捨てる」論理があった。これに疑義を唱え、被ばくを巡る救済のあり方を問うたのが、「黒い雨」訴訟だった。黒い雨被爆者がなぜ、どのように切り捨てられ、そして何を訴えて援護を勝ち得たのか。本書は、黒い雨被爆者が「切り捨てられてきた」戦後を記録した、初めてのノンフィクションである。

その記録は長崎で、福島で、そして世界中で今も置き去りにされている放射線による被害者を救う道しるべになると確信している。

（「序章終わらない戦後」より）

### 「黒い雨」訴訟

小山美砂  
Koyama Misa

なぜ、被爆者たちは  
切り捨てられたのか—。

広島原爆投下から70年以上を経て、ようやく語られ始めた「黒い雨」による被ばく問題を記録した初めてのノンフィクション。

第66回  
日本ジャーナリスト会議  
JCI賞  
受賞!



集英社新書

ご購入は、健康事業部 086-448-3369（担当柴田）まで

一冊 1,000円（税込）